

となん

うら遠き山はかすみの色ばかり満てくもれるしほの山哉
衣の關にてよめる。

みちのくの衣の關を來て見れば霞も幾重たちかさねけん
武隈の松蔭に暫く立よりて、ふりぬる身のたぐひなりと、思ひ
よそへてよみ侍りける。

いたづらに我もよはひは武隈の待つことなしに身の經りに
屍

末の松は遙かにながめやりて、さても遙々と來にける事など思
ひつゝけて、いつの間に春も末になりぬらんと思ひわびて、

春ははや末の松山ほともなくこゆるぞ旅の日なみなりける
又同じ處にて、

人なみに思ひ立ちにしかひあれやわがあらましの末の松山
けふの道に、實方朝臣の墳墓とて、しるしのかたち侍る、雨は
降りきぬと詠じける故事など思ひ出で、よめる。

櫻狩あめのふるごとと思ひ出で、けふしも濡らす旅ごろも哉
關の清水といへる處を過ぎけるに、杉むらの侍りければ、旁た
相坂の山路思ひ出でられて、

あふ坂の山にはあらぬ杉むらに立より關のしみづをぞ汲む
かくて宮城野に到りぬ、一村雨し侍りければ、暫く木蔭に立よ
りて、過ぐるを待ち侍りける間に、

木の下に雨やどりせむ宮城野やみかさと申す人しなければ
奥の細道、松本、もろをか、赤沼、西行歸りなどいふ處々を打
過ぎて、松島に到りぬ。浦々島々の風景言葉も及び難し。豫て

聞き侍りしは物の勢なりにても侍らす、皆々歸りかね侍りければ、
此浦のみるめにあかで松島やをせぬしまぬ人もなき名残かな
籬まがきが島を見渡せば、藤ふたばつゝじなど咲きあひて見え、風景多かり
ければ、

まがき島たが結ゆひ初はつし岩つゝじいはほに掛る磯のふぢなみ
これより鹽釜しほがまの浦へ渡り侍るとて、舟ふねの中うちにて、

松まつしまや松まつのうは風ふきくれてけふの舟路はちがの鹽がま
つゝじが岡おかを越こ行きけるに、蕨わづらを見て、

名なにしおふつゝじが岡おかのした蕨わづらともに折をしるはるのくれ哉
蕨わづらの橋はしを過ぎはべるとて、

かち人も駒うまもなづめる程なれやふみも定めぬとゞろきの橋
名取川なとりがわにてよめる二首。

廻國雜記終

廻國雜記

人ひとしれぬ埋うれ木きならば名とり川がわながれての世よになど聞きゆら
ん
いつの世よに現あはれそめて名取川がわみがくれ果はぬせの埋うれ木

明治四十五年三月十八日印刷
明治四十五年三月廿一日發行

不許複製

校訂者 幸田露伴
發行者 富山房
代表者 坂本嘉治馬
印刷者 上村龍之助
印刷所 同博信堂

海國雜記付並定價金三十錢
交回國雜記付並定價金廿三錢

發行所

(明治廿九年六月設立)

東京神田區
東神保町

合資會社

富山房

電話本局二六番四三番
振替口座東京五〇一番

▲每編皆短編の名著傑作。何れも國文學の精華ならざるはなし

袖珍名著文庫

既刊目次

第一編	芭蕉翁繪詞傳附句集	幸田先生校訂
第二編	淨瑠璃三	關正先生校訂
第三編	山娘節	尾崎紅葉先生校訂
第四編	今昔物語十	芳賀先生校訂
第五編	狂言二	藤岡先生校訂
第六編	近江家	關根先生校訂
第七編	西山流	幸田先生校訂
第八編	風流道軒	宮崎先生校訂
第九編	春霞	櫻庭先生校訂
第十編	俳諧	上野先生校訂
第十一編	國姓爺	關根先生校訂
第十二編	世曲	藤岡先生校訂
第十三編	日世	芳賀先生校訂
第十四編	萬載	宮崎先生校訂
第十五編	花集	櫻庭先生校訂
第十六編	日集	上野先生校訂
第十七編	萬載	關根先生校訂
第十八編	手摺	幸田先生校訂
第十九編	偶話	芳賀先生校訂
第二十編	紙選	宮崎先生校訂
第二十一編	選藏	櫻庭先生校訂
第二十二編	質番	上野先生校訂
第二十三編	戰か	關根先生校訂
第二十四編	傳力	藤岡先生校訂
第二十五編	集番	幸田先生校訂
第二十六編	語選	宮崎先生校訂
第二十七編	川語	芳賀先生校訂
第二十八編	種	尾崎先生校訂
第二十九編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第三十編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第三十一編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第三十二編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第三十三編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第三十四編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第三十五編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第三十六編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第三十七編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第三十八編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第三十九編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第四十編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第四十一編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第四十二編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第四十三編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第四十四編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第四十五編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第四十六編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第四十七編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第四十八編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第四十九編	幸田先生校訂	幸田先生校訂
第五十編	幸田先生校訂	幸田先生校訂

校訂編輯擔任

櫻庭葉村先生
幸田露伴先生
芳賀矢一先生
關正先生
藤岡作太郎先生
宮崎三味先生
(五十首順)

每編各校訂者得意の方
面より材料
料を選擇し
各時代各種
類の文學を
網羅す
小説、脚本
隨筆、史傳
詩歌、俳諧
雜論等に至
るまで何れ
も現時得易
からざる珍
籍を收む

錢五拾圓貳册十・錢拾圓壹册五・錢參拾貳金價正・册百部全

袖珍名著文庫

既刊目次

第一編	夢想兵衛胡蝶物語前編	幸田先生校訂
第二編	假名手本忠臣	幸田先生校訂
第三編	長物見聞忍	宮崎先生校訂
第四編	氏物語	上野先生校訂
第五編	雨の用心	關根先生校訂
第六編	問用	藤岡先生校訂
第七編	漢朗	芳賀先生校訂
第八編	佐用媛石魂錄前編	宮崎先生校訂
第九編	松浦	上野先生校訂
第十編	和漢	關根先生校訂
第十一編	世問	藤岡先生校訂
第十二編	春雨	芳賀先生校訂
第十三編	松源	宮崎先生校訂
第十四編	慶長	上野先生校訂
第十五編	假名	關根先生校訂
第十六編	氏物	藤岡先生校訂
第十七編	雨の	芳賀先生校訂
第十八編	問用	宮崎先生校訂
第十九編	漢朗	上野先生校訂
第二十編	佐用媛	關根先生校訂
第二十一編	松浦	藤岡先生校訂
第二十二編	和漢	芳賀先生校訂
第二十三編	世問	宮崎先生校訂
第二十四編	春雨	上野先生校訂
第二十五編	松源	關根先生校訂
第二十六編	慶長	藤岡先生校訂
第二十七編	假名	芳賀先生校訂
第二十八編	氏物	宮崎先生校訂
第二十九編	雨の	上野先生校訂
第三十編	問用	關根先生校訂
第三十一編	漢朗	藤岡先生校訂
第三十二編	佐用媛	芳賀先生校訂
第三十三編	松浦	宮崎先生校訂
第三十四編	和漢	上野先生校訂
第三十五編	世問	關根先生校訂
第三十六編	春雨	藤岡先生校訂
第三十七編	松源	芳賀先生校訂
第三十八編	慶長	宮崎先生校訂
第三十九編	假名	上野先生校訂
第四十編	氏物	關根先生校訂
第四十一編	雨の	藤岡先生校訂
第四十二編	問用	芳賀先生校訂
第四十三編	漢朗	宮崎先生校訂
第四十四編	佐用媛	上野先生校訂
第四十五編	松浦	關根先生校訂
第四十六編	和漢	藤岡先生校訂
第四十七編	世問	芳賀先生校訂
第四十八編	春雨	宮崎先生校訂
第四十九編	松源	上野先生校訂
第五十編	慶長	關根先生校訂
第五十一編	假名	藤岡先生校訂
第五十二編	氏物	芳賀先生校訂
第五十三編	雨の	宮崎先生校訂
第五十四編	問用	上野先生校訂
第五十五編	漢朗	關根先生校訂
第五十六編	佐用媛	藤岡先生校訂
第五十七編	松浦	芳賀先生校訂
第五十八編	和漢	宮崎先生校訂
第五十九編	世問	上野先生校訂
第六十編	春雨	關根先生校訂
第六十一編	松源	藤岡先生校訂
第六十二編	慶長	芳賀先生校訂
第六十三編	假名	宮崎先生校訂
第六十四編	氏物	上野先生校訂
第六十五編	雨の	關根先生校訂
第六十六編	問用	藤岡先生校訂
第六十七編	漢朗	芳賀先生校訂
第六十八編	佐用媛	宮崎先生校訂
第六十九編	松浦	上野先生校訂
第七十編	和漢	關根先生校訂
第七十一編	世問	藤岡先生校訂
第七十二編	春雨	芳賀先生校訂
第七十三編	松源	宮崎先生校訂
第七十四編	慶長	上野先生校訂
第七十五編	假名	關根先生校訂
第七十六編	氏物	藤岡先生校訂
第七十七編	雨の	芳賀先生校訂
第七十八編	問用	宮崎先生校訂
第七十九編	漢朗	上野先生校訂
第八十編	佐用媛	關根先生校訂
第八十一編	松浦	藤岡先生校訂
第八十二編	和漢	芳賀先生校訂
第八十三編	世問	宮崎先生校訂
第八十四編	春雨	上野先生校訂
第八十五編	松源	關根先生校訂
第八十六編	慶長	藤岡先生校訂
第八十七編	假名	芳賀先生校訂
第八十八編	氏物	宮崎先生校訂
第八十九編	雨の	上野先生校訂
第九十編	問用	關根先生校訂
第九十一編	漢朗	藤岡先生校訂
第九十二編	佐用媛	芳賀先生校訂
第九十三編	松浦	宮崎先生校訂
第九十四編	和漢	上野先生校訂
第九十五編	世問	關根先生校訂
第九十六編	春雨	藤岡先生校訂
第九十七編	松源	芳賀先生校訂
第九十八編	慶長	宮崎先生校訂
第九十九編	假名	上野先生校訂
第一百編	氏物	關根先生校訂

名著文庫體裁
寸珍頗美本
每編約二百頁
每編口繪
寫真版等入
縱四寸八分
橫三寸五分
振假名附
(携帶至便)

錢四册一稅郵・増錢八製上・錢卅圓六册卅・錢五廿圓四册卅

▲重版又重版眞に讀書界の寵兒たり全編完備一と欲本なし

東京會社 富山房出版文學書類

芳賀博士	國文學史十講	一	七五	重野博士	帝國史談	二	五〇
同	國語活用聯語一覽	一	二六	兒島教授	漢文	一	七〇
同	世界文學者年表	一	八五	同	續漢文典	一	六五
鈴木學士	日本文學史論	一	九〇	岡島安平	中等漢文典	一	四〇
草野學士	日本文法	一	一〇〇	占城真吉	支那文學史	一	一八〇
上田博士	國語のため	一	六五	遠藤博士	支那思想發達史	一	一六〇
同	同	二	八〇	葉山學士	獨逸國民文學史	一	一四〇
坪内銳雄	文學研究法	一	七〇	金井保三	支那語自在	一	三〇
坪内博士	劇と文學	一	一〇〇	兩上川氏	最新英和辭典	一	五五
尾崎紅葉	俳諧新潮	一	二八	島文學士	邦文英文典	三	一四〇
保科學士	言語發達論	一	六五	富山房	漢名數	一	三〇
井出今滋	橘曙覽全集	一	七〇	上田博士	西洋名數	一	四〇
藤澤學士	オルレアン <small>の少女</small>	一	四〇	ヨネ野口	英詩集	一	三五
尾崎紅葉	草もみぢ	一	五〇	藤井進藤	獨逸語獨習書	一	八〇
ウキ <small>レラ</small> ル ト小田切學士	註解和獨辭典	一	一〇〇	坪内博士	倫理と文學	一	一五〇

表中一、二、三などあるは冊數▲一、六〇は定價壹圓六拾錢一、二は郵稅拾貳錢の記號也

博士諸大名家餘名執筆

國民百科辭典

かくの如く輕便にしてかくの如く百科萬有を一貫し得たる書籍他にありや
 かくの如く輕便にしてかくの如く東西古今を洞觀し得べき書籍他にありや
 かくの如く輕便にしてかくの如く大小疑問を即決し得べき書籍他にありや
 かくの如く輕便にしてかくの如く正確適切な説明を與ふる書籍他にありや
 かくの如く輕便にしてかくの如く内容の大辭書と軒輊なき書籍他にありや
 かくの如く輕便にしてかくの如く各家各人萬人に切實なる書籍他にありや

修學の秘鍵
 四萬項目中に充滿す
 知識の寶庫

裝釘極美四六判千七百頁
 彩色地圖廿四枚
 正參圓
 送料内地共錢山
 價七拾錢
 發行所 四拾錢房

坪内博士序
杉谷代水
先生譯補
全一冊 定價一圓五十錢 郵稅十二錢

希臘神話

泰西文藝の最大勢力は希臘文藝也神話は又其本源精髄也苟も世界を口にするものは希臘神話に非ざざる可らず

坪内博士序
全一冊口繪及挿畫入價一圓廿五錢 郵稅八錢

七ハムレツト

全一冊口繪及挿畫入價一圓廿五錢 郵稅八錢

三口ミオとジュリエット

全一冊口繪及挿畫入價一圓廿五錢 郵稅八錢

再才セロ

文學博士 芳賀矢一 著
全一冊 定價七拾錢 郵稅金六錢

國民性十論

何事も世界的となれる我國民は彼を知ると共に我を知らざる可らず我を知て始めて世界舞臺上の人たるを得べし

文學博士 遠藤隆吉 著
全一冊 定價一圓廿錢 郵稅金八錢

常識百話

常識は納米の飯の如し米の飯の常識だにあらば世に立ち事を成し得べし 處世社交上常識の修養を怠り給ふな

編者 山房 一修訂
全一冊 定價一圓廿錢 郵稅金八錢

最新日本地圖

日本全土の外朝鮮滿洲大連樺太の精圖を加へたる最も新正確の本邦圖なり 各人必ず一本を蔵して利便際涯なし

文學博士 芳賀矢一先生 編纂
文學博士 下田次郎先生 編纂

日本家庭百科事彙

紙數四六倍判十五頁
石及圖卅餘(正價拾圓)
特別割引金七圓五拾錢
送料 内地金參拾二錢

現代文明人士必需品として 學校以外の社會
教育者のたるも 文明的家庭の經營 進步
的婦人生活に必要なる 學術技藝 網羅し 國
民教育に必要なる 知識技能 注意給し 其他農工商に
關する 悉く 詳記 所なし 嫁入の贈品 好評噴々たり

諸事項 悉く 詳記 所なし 嫁入の贈品 好評噴々たり

94
112

雜誌界之巨人

新 日 本

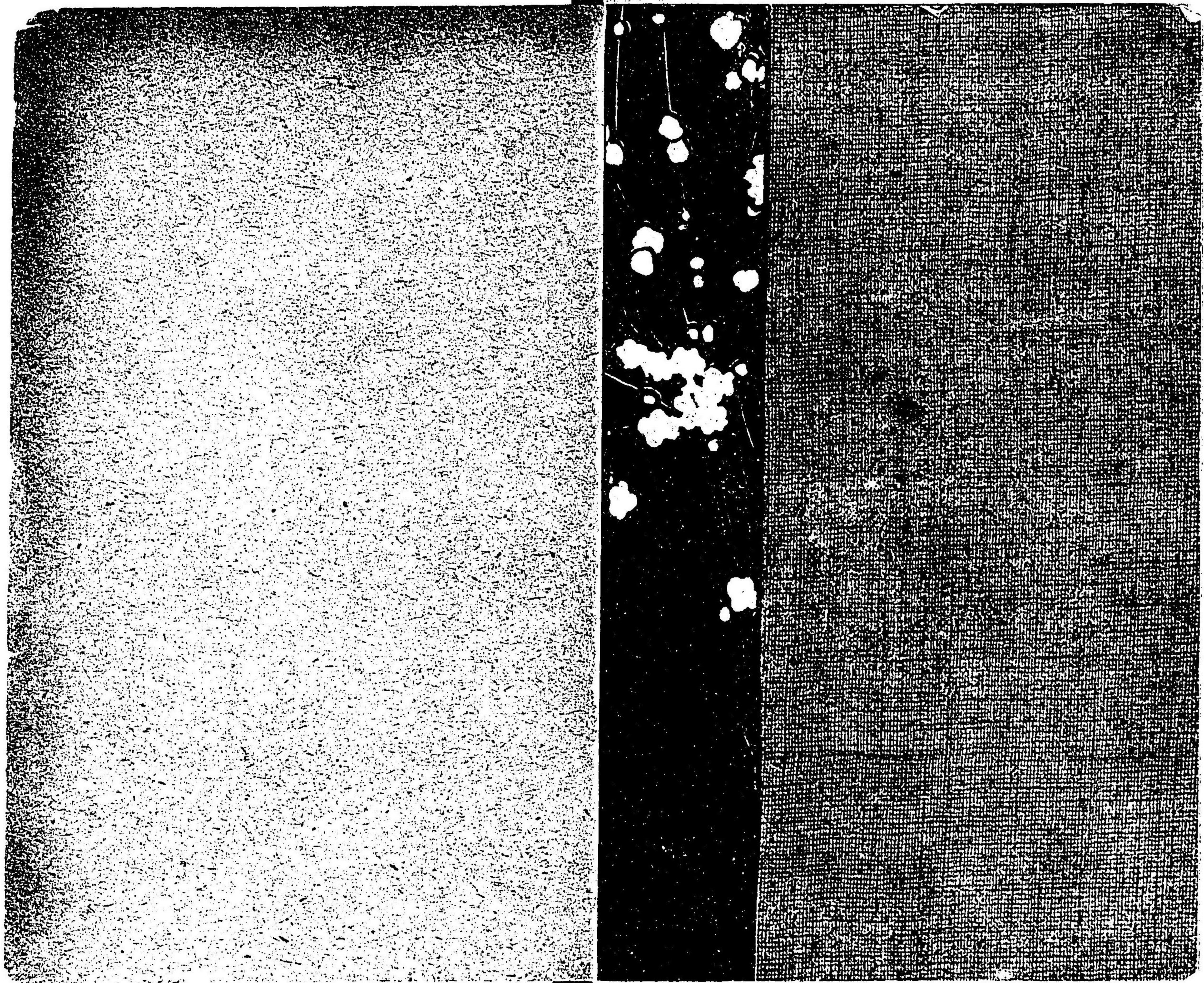
大隈伯爵主宰

編輯 永井柳太郎
主任 樋口 龍峽

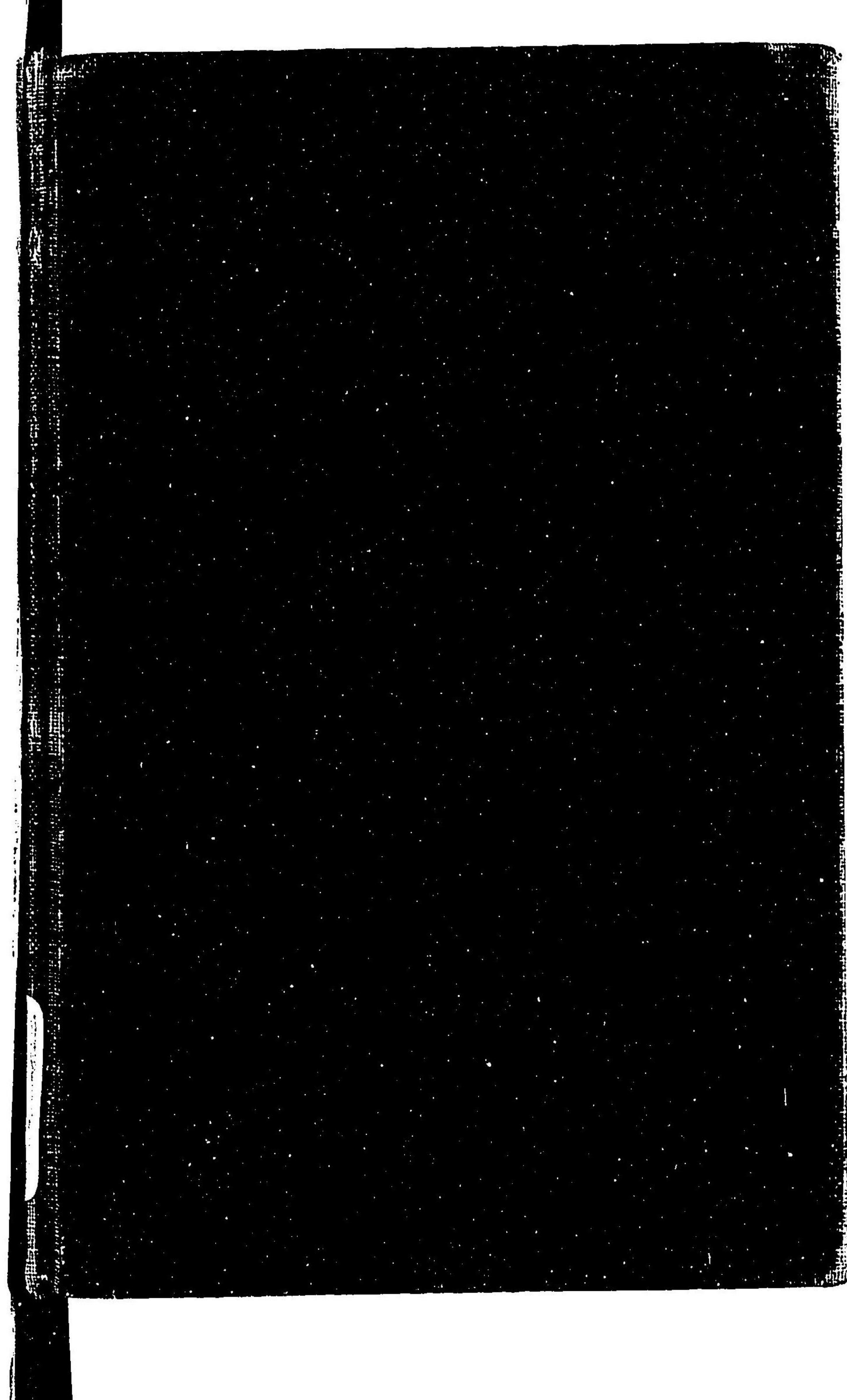
▲每月一日發行▼

廿萬の讀者を一舉に集めて信
用勢力共に超群の賛を博せるは
以其内容を語るに餘りあるべし。
◎主宰大隈伯爵の雄大痛快な十
二大家の顧問あり。實益と共に
趣味を興へ且世界的最新知識を
給す。時勢の落後者たらざ「新日本」を
手にせよ。

定價 金廿六錢郵税二錢五厘三冊前金郵税共廿
四錢六冊同壹圓六拾五錢十冊同三圓拾八錢



94
112



94
112

205092-000-4

94-112

海道記・廻国雑記

幸田 露伴/校

M45

EDV-0095



